

「古い鎌」にこめられた思い

姉妹都市オーストリア共和国チロル州セルデン町。初めて訪れた35年前は、山岳スキーリゾートながらまだ牧歌的で質朴な村でした。現在はオーストリアで最多の集客数を誇り、アルペンスキー・ワールドカップの第一戦が毎年行われる一大リゾートに。「なぜこれほどに発展が持続しているのか」同じ思いを持つ田村正幸湯沢町長と連れだつて出かけました。驚きをもつて変貌を実感。持続発展のカギは、法律（チロル州観光法）と税制度（滞在税の賦課徴収）。財源をさらに発展に向けて好循環。アルプスの町に複数の高級なプールなどを建設。マウンテンバイクやクライミングウォールなどのスポーツ施設を充実させるなど、夏季観光を徹底。うらやましいのは、諸施設の住民利用率と産業への住民参加率の高さ。観光施設は観光客のためだけでなく、住民の暮らしと質を高めるものでなくてはならない。他国資本の進出の脅威にもさらされている中で、地域を守る努力にも感銘しま

した。何よりも前向きで明るく、強烈な愛郷心がある住民にも。

16歳、第一回の交流派遣に参加。旧塩沢町との姉妹都市盟約後、当時の我田大作町長も初の公式訪問でした。歓迎会の席での、サンタ町長（当時）の言葉が今も忘れられません。「岩山につながる牧草地の緑。すばらしい景観ですね」我田町長の言葉に「そうではなく、貧しさの証です」と答えられた。森林限界の町なのだと。そして、使いこまれた大ぶりの古い鎌を贈られました。出稼ぎの町、食えない寒村だったお互いの共通点。そこに雪や山岳を利用しまちづくりが始まった。「同じだよ。がんばろう」その思いをこの鎌で表したのだろうと少年の私でさえ感じました。観光とは歴史と独自性、誇りある個性を売ることには他ならない。物まねはできないが、私たちの地域をここに近づけるにはどうしたらよいか。今は途切れてしまっているが、できれば子どもたちの派遣を再開させ、あの日の私と同じように、何事かを感じてもらいたいと切に思う旅となりました。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

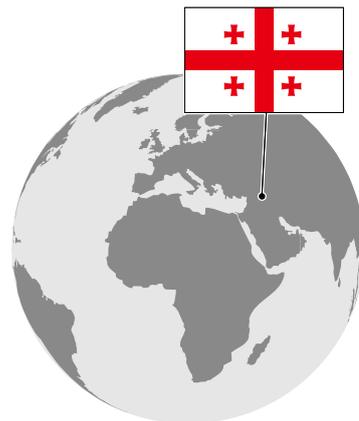
シリーズ
第64回

ジョージア ニノ ツクアリアシュヴィリ さん

私の国はこんなところ



私の国は、西アジアと東ヨーロッパが交差する場所に位置します。歴史・特有の文化があり、あたたかい人たちがいて、美味しい料理もあります。とても小さな国ですが、コーカサス山脈をハイキングしたり、世界遺産に登録された古い建造物を見物したり、黒海で泳いだり、ビーチで日焼けしたり、観光客が楽しめる場所やアクティビティがたくさんあります。冬にはスキーやスノーボードも楽しめます。私が生まれた首都トビリシは、街がカラフルで風情があり、硫黄の温泉が有名です。



南魚沼市に住んで感じたこと

私は大きな街に住み慣れていますが、自然が大好きなので、南魚沼という地をプレゼントされたような気分です。南魚沼は、守り神に守られているかのように山に囲まれ、冬には人の高さより雪が積もります。田んぼがどこまでも続き、美味しい空気が漂うとてもユニークな地です。友人とよく自転車や徒歩で水無川まで行き、川原でおしゃべりを楽しみました。最近は論文でとても忙しいですが、修了式前までには自然を再び満喫したいです。（6月修了生）

ジョージア

〔公用語〕	ジョージア語
〔首都〕	トビリシ
〔面積〕	69,700km ² (118位)
〔人口〕	3,720,400人 (129位)
〔GDP(PPP)〕	321億ドル (111位)
〔通貨〕	ラリ (GEL)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説 (PPP) により算出した数値です